

高等学校 令和5年度（1学年用） 教科 地理歴史 科目 歴史総合

教科：地理歴史 科目：歴史総合 単位数：2 単位

対象学年組：第1学年 1組～8組

教科担当者：

使用教科書：（歴史総合 近代から現代へ 山川出版社）

教科 地理歴史 の目標： 社会的事象の歴史的新見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

【知識及び技能】

【思考力、判断力、表現力等】

【学びに向かう力、人間性等】

科目 歴史総合 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
知識：近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。 技能：諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
【知識・技能】 大航海時代以降の植民地の獲得によって、ヨーロッパ諸国が重商主義で経済を発展させたことを理解させる。【思考・判断・表現】 産業革命による工業化や交通革命・通信革命などの変化、軍事技術の発展などによって西ヨーロッパを中心とした植民地支配が一層拡大したことを考察させる。【主体的に学習に取り組む態度】 産業革命による人々の生活の変化を追究させる。	①産業革命にいたるヨーロッパ経済の大きな流れを理解する。 ②産業革命によるヨーロッパ各国内の変化や、世界的な影響について考察する。	【知識・技能】 大航海時代以降の植民地の獲得によって、ヨーロッパ諸国が重商主義で経済を発展させたことを理解している。 【思考・判断・表現】 産業革命による工業化や交通革命・通信革命などの変化、軍事技術の発展などによって西ヨーロッパを中心とした植民地支配が一層拡大したことを考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 産業革命による人々の生活の変化を追究しようとしている。	○	○	○	5
【知識・技能】 アメリカ独立革命とフランス革命の原因とその経過について理解させる。【思考・判断・表現】 アメリカ独立革命がその後の世界に与えた影響を比較しながら、多面的・多角的に考察し、表現できるようにする。 【主体的に学習に取り組む態度】 アメリカ独立革命とフランス革命によってうみ出された理念や考え方について追究できるようにする。	①七年戦争の勝利後におけるイギリスの北アメリカ植民地の拡大と変遷を理解する。 ②アメリカ独立革命とその理念を比較し、その後の世界に与えた影響を考察する。	【知識・技能】 アメリカ独立革命とフランス革命の原因とその経過について理解している。 【思考・判断・表現】 アメリカ独立革命がその後の世界に与えた影響を比較しながら、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 アメリカ独立革命とフランス革命によってうみ出された理念や考え方について追究しようとしている。	○	○	○	8
定期考査			○	○		1
【知識・技能】 「東方問題」に関係する国々と、問題に対する各国の論理を理解している。イギリスがスエズ運河株式会社株の獲得や民族運動の弾圧を通して、エジプトを段階的に植民地化したことを理解できるようにする。【思考・判断・表現】 オスマン帝国による改革とその限界について考察している。イギリスがフランスやインドの諸勢力との戦いによって、インドを段階的に植民地化した過程を考察し、表現できるようにする。 【主体的に学習に取り組む態度】 東南アジアにおける今日のあるあり方と植民地化の歴史について追究できるようにする。	①「東方問題」とはどのような問題であるかをとらえ、その概要を理解する。 ②イギリスによるエジプト進出の全体像を把握し、その過程について理解する。 ③オスマン帝国がおこなった改革の内容を理解し、その改革がどのような結果をもたらしたのかについて考察する。 ④イギリスによるインド植民地化の全体像を把握し、その過程について理解する。 ⑤ヨーロッパ列強による東南アジア植民地化の全体像を把握し、その過程について理解する。	【知識・技能】 「東方問題」に関係する国々と、問題に対する各国の論理を理解している。イギリスがスエズ運河株式会社株の獲得や民族運動の弾圧を通して、エジプトを段階的に植民地化したことを理解している。 【思考・判断・表現】 オスマン帝国による改革とその限界について考察している。イギリスがフランスやインドの諸勢力との戦いによって、インドを段階的に植民地化した過程を考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 エジプトとインドにおけるイギリスの植民地化の過程を比較し、共通する点や構造を見出そうとしている。 ・東南アジアにおける今日のあるあり方と植民地化の歴史について追究しようとしている。	○	○	○	8
定期考査			○	○		1
【知識・技能】 中国が欧米列強と結んだ不平等条約の内容とその結果について理解することができる。開国を転換点として、江戸幕府と朝廷・諸大名の関係に変化が生じたことを理解することができる。【思考・判断・表現】 太平天国の乱と、それに続く清朝の没落と、それに続く中華民国の成立について理解する。	①アヘン戦争・第2次アヘン戦争（アロー戦争）によって、イギリスをはじめとした欧米列強に、中国が半植民地化されていく過程を理解する。 ②19世紀半ばの中国をゆるがした太平天国の乱と、それに続く清朝の没落と、それに続く中華民国の成立について理解する。	【知識・技能】 中国が欧米列強と結んだ不平等条約の内容とその結果について理解している。開国を転換点として、江戸幕府と朝廷・諸大名の関係に変化が生じたことを理解している。 【思考・判断・表現】 太平天国の乱後の中国における改革とその限界について考察している。開国によって世界と結びついたことについて理解している。				

2学期	<p>国の乱後の中国における改革とその限界について考察することができる。開国によって世界と結びついたことによる江戸幕府や諸藩における知識・技術の受容と、日本と欧米諸国とのあいだの貿易の特徴を考察することができる。【主体的に学習に取り組む態度】開国後の欧米列強との貿易における中国と日本の輸出入品から、共通点や相違点を見出すことができる。</p>	<p>の改革のあり方について考察する。</p> <p>③欧米諸国の通商要求に対する江戸幕府の対応を理解し、開国にいたる経緯を理解する。</p> <p>④ペリー来航後、朝廷・諸大名の発言力が増大し、江戸幕府の政治が動揺していった変動の様相を理解する。</p> <p>⑤開国後、日本では欧米の知識・技術の受容がいつそう進んだことを理解するとともに、日本と欧米諸国とのあいだでおこなわれた貿易の特徴を考察する。</p> <p>⑥19世紀末の朝鮮国内の動きに対して、日本と清がどのように関与したか、また朝鮮をめぐる両国が対立するに至った過程について理解する。</p> <p>⑦条約改正が成功した国際的な背景を理解し、その交渉経過や、締結された条約内容について考察する。</p> <p>⑧日清戦争がおこった背景を理解し、戦争の推移・結果や、その後の日本と清・朝鮮に対する影響について考察する。</p> <p>⑨日清戦争後の国内政治について、政府と政党の動きに注目しながら、その特徴を理解する。</p>	<p>とによる江戸幕府や諸藩における知識・技術の受容と、日本と欧米諸国とのあいだの貿易の特徴を考察している。明治政府の条約改正の展開が、清を中心とした東アジアの国際関係にどのような影響を与えたのか理解している。日清戦争の原因・過程・結果を年表にまとめている。日清戦争後に政府が軍備拡張と産業育成を進めるにあたり、政党がどのように対応したかを理解している。日本が、朝鮮・清に対してどのような過程を経て条約を締結したかを表現している。条約改正の背景や要因について、多面的・多角的に考察している。日清戦争後の、政府と政党の動きについてその推移を考察している。【主体的に学習に取り組む態度】開国後の欧米列強との貿易における中国と日本の輸出入品から、共通点や相違点を見出そうとしている。幕末の動乱と欧米諸国との関係について、事件を整理しながら追究しようとしている。山県有朋首相の演説や「脱亜論」の史料を読み、その内容を比較して、相違点や共通点を具体的に追究しようとしている。日清戦争の原因・過程・結果を考察し、その後の日本の台湾・朝鮮の統治について追究しようとしている。</p>	○	○	○	20
	<p>【知識・技能】第2次産業革命の概要を理解し、その後の経済活動にあつた影響を理解することができる。帝国主義について、イギリス・フランス・ドイツ・ロシア・アメリカのそれぞれの経済・政治上の動向をまとめることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】第2次産業革命の内容を理解し、どのように展開したかを考察している。帝国主義の生まれた背景や進展について、主要国の動向を考察し、表現することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】帝国主義の時代が、世界の一体化を進めたことについて、過程・結果、そしてその後の現代にいたる影響について深く、追究することができる。</p>	<p>①第2次産業革命の概要を年表にまとめ、それがどのように世界を変化させていったのかを理解する。</p> <p>②帝国主義とは、どのような状況で、どのようにして生まれたのか、その後の世界にどのような影響を与えたかを理解する。</p> <p>③パクス=ブリタニカの時代が終焉をむかえ、鉄鋼生産量などにおいてイギリスがアメリカやドイツに抜かれていった過程を考察する。</p> <p>④後発国であるドイツが工業化などにより急速にその力を強め、イギリスやフランスをおびやかす存在となつていった過程を考察する。</p> <p>⑤アメリカ合衆国が工業力で世界第1位となり、帝国主義的な政策によって領土を拡大していった過程を考察する。</p> <p>⑥スエズ運河やパナマ運河が開通して、世界の一体化が急速に進展していった過程を考察する。</p>	<p>【知識・技能】第2次産業革命の概要を理解し、その後の経済活動にあつた影響を理解している。帝国主義について、イギリス・フランス・ドイツ・ロシア・アメリカのそれぞれの経済・政治上の動向をまとめている。</p> <p>【思考・判断・表現】第2次産業革命の内容を理解し、どのように展開したかを考察している。帝国主義の生まれた背景や進展について、主要国の動向を考察し、表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】帝国主義の時代が、世界の一体化を進めたことについて、過程・結果、そしてその後の現代にいたる影響について深く、追究しようとしている。</p>				15
	<p>【知識・技能】二・二六事件のおこった背景・過程について考察したうえで、その後の政府・軍部の動向を理解することができる。日中戦争のおこった背景・過程について理解している。第二次世界大戦のおこった背景を理解し、ヨーロッパ諸国がどのような影響を受けたのかまとめている。国内の人びとの生活</p>	<p>①二・二六事件がおこった背景を考察し、その後の政治や軍部の動きの推移について理解する。</p> <p>②日中戦争がおこった背景を理解し、その後の国際社会に与えた影響を考察する。</p> <p>③日本が中国に侵攻して、軍がど</p>	<p>【知識・技能】二・二六事件のおこった背景・過程について考察したうえで、その後の政府・軍部の動向を理解している。日中戦争のおこった背景・過程について理解している。第二次世界大戦のおこった背景を理解し、ヨーロッパ諸国がどのような影響を受けたのかまとめている。国内の人びとの生活</p>				

3 学 期	<p>ロッパ諸国がどのような影響を受けたのかまとめている。国内の人びとの生活や、中国・朝鮮から動員された人びとの生活がどうであったか理解することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】二・二六事件、日中戦争、三国同盟にいたる時期を年表にまとめて、その動向を表現することができる。この時期の、日本の国民生活の変化について考察することができる。日本とアメリカの対立の背景を、日米関係を基軸にして、多角的に表現している。日米の主要物資の生産高を比較して、日米の差がどのくらいあったのかを考察し、表現している。【主体的に学習に取り組む態度】日中戦争の長期化は、日中両国の人びとや国際社会にどのような影響をもたらしたのか、多面的・多角的に追究しようとしている。三国同盟の締結が、イギリス・アメリカに対して与えた影響について追究しようとしている。第二次世界大戦の終結にいたる連合国側の会議について時系列にその内容を追究しようとしている。第二次世界大戦の結果、国際社会はどのように変化していくことになるかその嚆矢について追究しようとしている。</p>	<p>のような行動をとっていたか理解し、中国の人々にはどのような影響を受けたかについて考察する。</p> <p>④三国同盟がどのようにして締結されたか理解する。また、国民生活にどのような変化・影響があったのか、新体制運動の下での背景と関連づけながら考察する。</p> <p>⑤第二次世界大戦がおこった背景を理解し、その後の政治の推移を考察する。</p> <p>⑥日本とアメリカの対立は、どのような背景から生じたか、日米関係の背景や理由を考察する。</p> <p>⑦ドイツ・イタリアはヨーロッパでどのような動きをしていたか、その背景や理由を考察する。</p> <p>⑧日本国内における戦時下での国民の生活や、中国・朝鮮から動員された人々の生活について考察する。</p> <p>⑨第二次世界大戦は、戦後の世界にどのような影響を与えたか考察する。</p>	<p>や、中国・朝鮮から動員された人びとの生活がどうであったか理解している。【思考・判断・表現】二・二六事件、日中戦争、三国同盟にいたる時期を年表にまとめて、その動向を表現している。この時期の、日本の国民生活の変化について考察している。日本とアメリカの対立の背景を、日米関係を基軸にして、多角的に表現している。日米の主要物資の生産高を比較して、日米の差がどのくらいあったのかを考察し、表現している。【主体的に学習に取り組む態度】日中戦争の長期化は、日中両国の人びとや国際社会にどのような影響をもたらしたのか、多面的・多角的に追究しようとしている。三国同盟の締結が、イギリス・アメリカに対して与えた影響について追究しようとしている。第二次世界大戦の終結にいたる連合国側の会議について時系列にその内容を追究しようとしている。第二次世界大戦の結果、国際社会はどのように変化していくことになるかその嚆矢について追究しようとしている。</p>	○	○	○	8
	<p>【知識・技能】西側陣営、東側陣営によるそれぞれの防衛体制の構築について理解することができる。核兵器の独占がソ連に破られたことによりアメリカ社会が受けた衝撃を理解することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】ワルシャワ条約機構が結成された背景と、その影響について考察することができる。核兵器開発競争の過熱化が国際連合の下で、原子力発電の開発の本格化につながったことを考察することができる。【主体的に学習に取り組む態度】地図を活用し、西側陣営・東側陣営が構築した防衛体制とおもな紛争地点から、その意図を見出そうとしている。グラフから米ソの核開発競争の過熱化について見出すことができる。</p>	<p>①第二次世界大戦後の国際社会が、どのようにして新たな国際秩序を構築したかを考察する。</p> <p>②アメリカとソ連の対立の背景を理解して、ヨーロッパ諸国が受けた影響を考察する。</p> <p>③ドイツの戦後の占領分割について、連合国側とソ連のそれぞれの方法を考察する。</p> <p>④冷戦について、資本主義陣営と社会主義陣営にわかれた経緯を理解し、米ソが二大国となったことを理解する。</p>	<p>【知識・技能】西側陣営、東側陣営によるそれぞれの防衛体制の構築について理解している。核兵器の独占がソ連に破られたことによりアメリカ社会が受けた衝撃を理解している。【思考・判断・表現】ワルシャワ条約機構が結成された背景と、その影響について考察している。核兵器開発競争の過熱化が国際連合の下で、原子力発電の開発の本格化につながったことを考察している。【主体的に学習に取り組む態度】地図を活用し、西側陣営・東側陣営が構築した防衛体制とおもな紛争地点から、その意図を見出そうとしている。グラフから米ソの核開発競争の過熱化について見出そうとしている。</p>				4
合計							70